

# 平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	カンパチ親魚候補の選抜育種試験			
事業年度	平成25~27年	事業費 財源	6,954千円 (-)6,954 (国) (諸)	担当者 増養殖環境課 渡辺 貢
<p><b>【背景・目的】</b></p> <p>本県の海面養殖業の主力魚種はブリ・カンパチ・マダイであり、カンパチは57経営体が年間約120万尾の種苗を導入して4,146ト(H22)生産しており、全国3位の生産地となっている。カンパチ養殖用種苗のほとんどは、中国産天然種苗の輸入に依存しているが、中国からの種苗供給量の減少や防疫上の問題点から、人工種苗への転換が喫緊の課題となっている。</p> <p>そこで、平成24年度からカンパチ人工種苗の量産化技術開発に着手したが、人工種苗の経済的特質の向上を図るためには、育種への取り組みが不可欠である。しかし、育種には膨大な解析作業と解析に十分な魚の数、それらを飼育する労力と施設が不可欠である。</p> <p>このため、水産試験場と県内民間種苗生産会社との共同研究により、「飼育」と「解析」を両輪とする研究を推進し、優良形質を有するカンパチ人工種苗を計画的かつ安定的に供給することを目指す。</p>				
<p><b>【事業の概要】</b></p> <p>県内民間種苗生産会社との共同研究によって、種苗量産技術の開発と育種への取り組みの相乗効果で、カンパチ人工種苗の養殖用種苗としての実用化を加速させる。</p> <p>県内民間種苗生産会社が遺伝情報の解析・整備と継代飼育の技術開発を担当し、水産試験場は選抜と継続飼育を担当することで、育種目標となる優良形質を持った系統を作出し、その種苗を養殖現場に提供する。</p>				
<p><b>【全体計画とこれまでの成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝情報の解析・整備と継代飼育の技術開発（県内民間種苗生産会社）             <ol style="list-style-type: none"> <li>①目的の優良形質と関連が深いDNAマーカーの探索及び遺伝子連鎖地図の作成</li> <li>②目的の遺伝型を持つカンパチの継代飼育</li> </ol> </li> <li>・ 選抜と継続飼育（水産試験場）             <ol style="list-style-type: none"> <li>①養殖用種苗に要求される優良形質を持つカンパチ人工種苗の選抜と継続飼育</li> <li>②目的とする優良形質の表現型データの収集</li> </ol> </li> </ul>				
<p><b>【25年度計画】</b></p> <p>①養殖用種苗に要求される優良形質を持つカンパチ人工種苗の選抜と継続飼育</p> <p>県内民間種苗生産会社で生産された人工種苗を用いて継続飼育し、定期的な選別・分養により早熟や高成長形質の有無など養殖段階での種苗性を確認する。</p>				
<p><b>【成果目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画生産と周年出荷による販路の拡大と出荷価格の安定</li> <li>・ 高品質で安全・安心な高知産カンパチブランドの確立</li> <li>・ 県内におけるカンパチ種苗供給地の形成</li> </ul>				
<p><b>【期待される効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優良経済形質を持つ養殖用カンパチ人工種苗の安定供給によって種苗コスト削減と周年出荷が可能となり、県内カンパチ養殖業の活性化が期待される。</li> <li>・ 浦ノ内湾では、低価格化が進むモジャコに替わりカンパチ種苗供給地が形成され、県内種苗業者の競争力強化と経営安定につながる。</li> </ul>				